

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市
 〒450-0002 名古屋 45-19
 中村区 名駅二丁目 8番
 桑山ビル 8階 C号 室
 電話 (583) 19000番
 F A X (583) 19100番
<http://www.cn-sho.or.jp>
info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

ご挨拶

—— 新年度を迎えて ——



理事長
鬼頭翔雲

桜も満開になり、戸外に出て自然に親しむには絶好の季節となりました。会員の皆様には平素、本会のために格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年度は本会創立八十周年を迎え、多くの記念事業を行うことができました。ここに一部をふりかえりご紹介したいと思います。

四月には本会記念誌「八十年の歩み」を発行いたしました。五月には名古屋栄「オアシス21 銀河の広場」において「いつso懸命 楽しいっ書!」と銘打ち、各種記念イベントを開催致しました。その後県美術館ギャラリーでは本会理事による席上揮毫会を行うと共に、展示企画としてオアシス21で行われた一般市民の参加イベントによる小作品や、書道パフォーマンスをして頂きました安藤美姫さんの小作品「絆」を展示致しました。同時に県美、名古屋市博物館両会場では「八十年の歩み」のダイジェスト版DVDを放映しました。

これらの記念事業を盛況裡に終えることが出来ましたのも、会員の皆様の絶大なるご協力の賜であり、改めて厚く御礼申し上げます。

目次

- 1 理事長あいさつ
平成二十六年第二回理事会・報告内容
- 2 祝賀懇談会
上小倉積山氏
愛知県芸術文化選奨文化新人賞ご受賞
寺尾桑林氏
改組新第一回日展東海展中日賞ご受賞
- 3 平成二十六年度講演会
平成二十六年度講演会
第六十五回記念中日書道展記念行事
平成二十七年国内史跡探訪研修旅行案内
- 4 平成二十六年第二回理事会・報告内容
- 5 平成二十六年第二回理事会議案書
内容(抜粋)
- 10 第六十五回記念中日書道展運営委員会
開催日程表
- 11 第六十五回記念中日書道展
入賞者
- 12 第三十二回読売書法展
当番審査員
- 20 第六十七回毎日書道展
- 21 支部だより(下半期)

平成二十六年度

第二回理事会・第一回評議員会開催

日時 平成二十七年三月十一日(水・祝)
 場所 名古屋観光ホテル

二十六年度第二回理事会が去る二月十一日に開催されました。

鬼頭理事長の挨拶により始まり、二十七年事業計画案・二十七年事業案、評議員及び正会員の承認、審査会員の承認等の議事について熱心にかつ慎重に審議が行われ、出席理事全員の賛同を得て、すべて承認されました。

理事会終了後、引き続き第一回評議員会が昨年と同様、本会の定款に従い理事会における決定事項の報告会という形で開催されました。

報告された事項は、二十七年事業計画・二十七年事業案、評議員及び正会員の承認、審査会員の承認について、でした。

内容の詳細はP5～9に記載



理事会 挙手による議案の決定



評議員会であいさつされる鬼頭理事長

平成 26 年度 第 2 回 理 事 会 ・ 第 1 回 評 議 員 会 開 催 改 組 新 第 一 回 日 展 入 選 ・ 読 売 書 法 展 ・ 毎 日 書 道 展 受 賞 者 祝 賀 懇 談 会

祝賀懇談会を開催して

厚生部長 小 島 瑞 柳

梅の蕾が脹らみ始めた平成二十七年二月十一日(水・祝)、名古屋観光ホテル三階那古の間に於いて、平成二十六年第二回理事会、第一回評議員の祝賀懇談会が開催されました。

始めに、鬼頭翔雲理事長から「二十六年度は八十周年という歴史を迎え、その記念事業も盛大なうちに無事終える事が出来ましたが、皆さんのお陰、感謝しています。」との言葉を頂きました。

続いて本会名誉顧問、書道文化研究家の西嶋慎一氏より、「奇人・変人・書道三昧。——思い出の書人達——という題で講演を頂きました。今年には六十五回展とのこと、節目の時には今までにない作品を精一ばい書いて下さい。」と励ましのお言葉を頂きました。

来賓、本会役員の紹介の後、平成二十六年改組新第一回日展東海展中日賞、同初入選、第三十一回読売書法展読売新聞社賞、第六十六回毎日書道展会員賞受賞者に樽本樹邨名誉副会長より、記念品が授与されました。

本会理事の天野白雲先生は長年の教育指導に功績のあった人に与えられる愛知県立学校教科教育功労賞の受賞を祝し、樽本樹邨名誉副会長より、花束が贈呈されました。

そして、本会常任顧問後藤汀鶯先生の乾杯のご発声により、梅花の宴が始まりました。

四三〇名のご参加を頂き、盛況の中和やかに祝賀懇談会が終えられましたこと、心よりお礼申し上げます。



祝賀会で来賓として祝辞を述べられる 西嶋慎一氏



愛知県立学校教科教育功労賞受賞 天野白雲氏



改組新第一回日展東海展 中日賞 寺尾桑林氏



第66回毎日書道展 会員賞受賞者



第31回読売書法展 読売新聞社賞受賞者

愛知県芸術文化選奨文化新人賞を受賞して

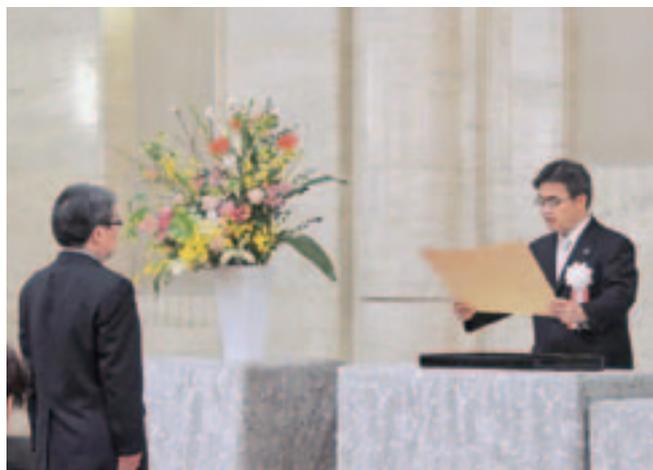


上小倉 積山

この度、平成二十六年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞を賜ることができました。これもひとえに今日までご指導いただきました諸先生、諸先輩方のお蔭と深く感謝いたしております。三月十八日に愛知県庁の歴史ある講堂で厳粛な空気の中授賞式が行われ、大村秀章知事より表彰状が授与されました。

大学入学と同時に始めた書の道で、このように名誉ある賞を頂くことが出来るとは全く想像すらできませんでした。今回頂戴しました賞は、中部日本書道会を通して大変に微力ではありませんが活動してきたことを評価していただいたものであり、今後、この地域の文化芸術のためにさらに活動してゆく重責を課していただくためです。

ただけに、その事を受け止めておられます。その事を考えますと、大変に名誉ある賞を頂いた喜び以上に、その課せられた責任に身が引き締まる思いがいたします。



中部日本書道会は、昨年の創立八十周年記念イベントや、本年、第六十五回記念となる中日書道展において、幅広い年齢層の方々に書の楽しさ、魅力を感じていただくよう活動しております。私も一会員として、一人でも多くの方々が、書を見て楽しみ、自らも書いて楽しむことが出来るような働きかけをして行きたいと思っております。

この賞を頂きましたことを機に、自らもより一層精進して行くとともに、文化芸術のひとつとしての書が、広く受け入れられ発展して行くために少しでもお役に立ちたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

改組新第一回日展東海展 中日賞を受賞して



寺尾 桑林

日展東海展にて中日賞を拝受し、とても感動しています。

今回の日展は、名称も組織も改革され、心機一転スタートしました。

しかし、一人の書作家として三十年以上本展に出品している私にとって、出品者の一割程度の作家のみに陳列を許される超難関の展覧会であり、それまでのいくつかの公募展を布石として一年間の集大成と位置づけていることに全く変わりはありませんでした。

今回の出品作品は、これまでの私の作品作りのポイントである、①行間の白 ②字間の白 ③文字の懐の白 ④紙の縁の白と、これらの「白」を意識した構成から、重厚で力の深い線、懐はゆったりとしながら①行間をあまり開け過ぎず ②字間をあまり空けず

に、白よりも黒(墨)を意識し書込み、これまでの作品作りの視点とは全く逆の発想を持って作品制作を始めました。

しかし、これまでとはまるで勝手が違い、書くたびに作品全体のバランスが変わり、なかなかうまくまとまらず苦慮しました。目標としたものがすべて表現できたとは思っておりませんが、今の自分ができる精一杯の表現をしました。

その結果、入選という難関を突破し、更に中日賞を拝受したことは、本当に感無量です。

これからも立てた目標に一步でも近づけるように作品制作を進めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

改組新第一回日展出品作品(張 仲 素 詩)



平成二十六年年度講演会を開催して

研究部長 廣澤凌舟

講師紹介
西嶋慎一（にしじま しんいち）先生
 現在、成田山書道美術館研究員、大東文化
 大学書道研究所研究員、公益社団法人日本
 書芸院学術顧問、公益社団法人中部日本書
 道会名誉顧問、中国西冷印社名誉社員

二月十一日（水・祝）名古屋観光ホテル
 曙東の間におきまして、平成二十六年年度講
 演会を開催いたしました。

講師に書道文化研究家・西嶋慎一先生を
 お迎えして「奇人・変人・書道三昧——思い
 出の書人達——という演題でご講演（約
 一時間十五分）をいただきました。

講師紹介にもありますように書道評論家
 の第一人者であります西嶋慎一先生のお話
 を聴講出来るとあって席の追加をお願いす
 るという盛況ぶ
 りでした。

西川寧先生、
 青山杉雨先生、
 鈴木翠軒先生、
 日比野五鳳先生
 等、今日の書道
 会の礎を築かれ
 た先生方のお人
 柄やエピソード
 は書壇に精通さ
 れる先生ならで
 はのお話しに魅

講演会内容

日時 平成27年2月11日（水・祝）
 場所 名古屋観光ホテル
 講演 本会名誉顧問 西嶋慎一先生
 書道文化研究家
 演題 「奇人・変人・書道三昧」
 —— 思い出の書人達 ——



講演される西嶋慎一先生

了され楽しい講演会でした。
 参加者からは「作品でしか知らない先生
 のお姿が目につかふ様でした。」「時間が
 あつという間に過ぎてしまいました。機会
 があればもう一度聞きたいです。」等、多く
 の嬉しいお言葉をいただきました。
 最後になりましたが、ご多用中にも拘ら
 ず本会のためにご講演いただきました西嶋
 慎一先生に厚く御礼申し上げます。
 来年度も講演会を開催予定でございま
 す。多数のご参加をお待ちしております。
 ありがとうございます。

第65回記念中日書道展 特別展観及び記念行事のご案内

- 1. 特別展観「時代を拓く大作書展 2015」**
 ・中日書道会の中堅書家による大作書を展覧します。
- 2. 第65回記念中日書きぞめ展優秀作品展示**
 ・第65回記念中日書きぞめ展受賞作品を展覧会期間中、愛知県美術館に展示します。
- 3. 席上揮毫会**
 ・愛知県美術館ロビーにて、6月20日(土)11:00～12:00 第65回記念中日書きぞめ展特別賞受賞者による揮毫会。
 13:00～15:00 中日書道会5部門代表による揮毫会を行います。
- 4. 『中日書道会80年の歴史』DVD放映**
 ・会期中愛知県美術館ギャラリー8階ロビーにて「中日書道会80年の歴史」DVDを放映しております。

平成27年度 国内史跡探訪研修旅行のご案内

※詳細等は別にご案内します「国内史跡探訪研修旅行《参加者募集要項》」をご確認いただき、多くの先生方のご参加を
 お願いいたします。

●旅行月日：平成27年8月4日(火)～8月5日(水) 1泊2日 ●旅行先：伊豆と駿河の旅

旅行内容	
①	JR 名古屋駅発——「エスパルスドリームプラザ」【昼食】——清水港——〈駿河湾フェリー〉——土肥港着—— 8:30 11:45 「修善寺虹の郷」——「伊豆長岡温泉」【宿泊】 17:30
②	ホテル発——「沼津御用邸記念公園」——「柿田川湧水群」——「日本平駐車場」【昼食】——〈ロープウェイ〉—— 8:30 12:45 「久能山東照宮」——〈ロープウェイ〉——「日本平駐車場」——JR 名古屋駅着 19:00

※交通渋滞・諸事情によりスケジュールが変更になることもあります。

平成二十六年 公益社団法人 中部日本書道会 第二回理事会内容 (より抜粋)

日時 平成二十七年二月十一日(水・祝)
場所 名古屋観光ホテル

平成二十六年 公益社団法人 中部日本書道会 第二回理事会 次第

- 一、開会のことば
二、理事長あいさつ
三、議事
第一号議案 平成二十七年事業計画案に関する件
第二号議案 平成二十七年予算案(案)に関する件
第三号議案 評議員の承認に関する件
第四号議案 正会員の承認に関する件
第五号議案 審査会員の承認に関する件
四、閉会のことば

第一号議案 平成二十七年事業計画(案)に関する件

- I 書道普及振興事業(公益目的事業 1)
一 展覧会等の事業
本会は、出版作品の審査を行う公募展である中日書道展を企画運営することによって、従来より、書道文化の普及発展に寄与していることは周知されていることである。加えて、初心者若年層および地域の書道愛好家のために、これにふさわしい書道展の開催も必要不可欠である。そのために本会では、中日書きぞめ展、一宮支部学生展、半田支部学生書道展、西三河支部学生展を出版作品審査を行う公募展として開催する。
また、書道芸術の発展のためには、書の技量の上達だけでなく、書に関する幅広い教養の習得も必要である。このため、本会では、書道教育研修会、公開講座、講演会、研修会を実施する。
(1) 中部日本書道会第六十五回記念中日書道展
会期 平成二十七年六月十六日～二十一日
会場 愛知県美術館
会期 平成二十七年六月九日～十四日
会場 名古屋市民ギャラリー栄

- (2) 会期 平成二十七年六月二十一日～二十四日、二十八日
会場 名古屋博物館
(3) 会期 平成二十八年三月(予定)
会場 ナディアパーク アトリウム(予定)
中日支部学生書道展
第四十四回一宮支部学生書道展
会期 平成二十七年十一月二十一日～二十二日
会場 一宮スポーツ文化センター
第五十一回半田支部学生書道展
会期 平成二十七年七月
会場 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)
第四十七回西三河学生書道展
会期 平成二十七年七月八日～十日
会場 岡崎市美術館
(4) 第二十七回書道教育研修会
日時 平成二十七年十月十二日
会場 名古屋国際センター
(5) 第十九回公開講座
日時 平成二十七年十一月二十二日
会場 電気文化会館イベントホール
(6) 講演会
本部(二十八年二月)、一宮(二十八年二月)、半田(二十八年三月)、東三河(七月)、西三河(二十八年二月)、濃飛(七月)、北勢(七月)、中南勢(十月)、岐阜(五月)
(7) 研修会・講習会
半田(十一月)、東三河(十月)、中南勢(十月)、岐阜(十一月)
(8) 支部公開講座
半田(十月)
II 福祉事業(公益目的事業 2)
本会では、従来より社会福祉法人への募金による社会事業への協力奉仕を行っている。引き続き本年度も、会員のうち有志から募金を募り、社会福祉法人中日新聞社会事業団および社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団に寄付をおこなう。

III その他の事業(相互扶助等事業)

- (1) 二〇一五年チャリティ愛の募金
―しあわせ薄い人々に愛の手を―
期間 平成二十七年十月～十二月
(2) 本会は、出版作品の審査を行わない公募展及び会員向け書道展として、書展及び各支部において支部展・支部選抜展を行う。
また、会員を対象として、本部講演会を開催して、会員の資質向上に寄与することとする。
支部においては、会員向け講習会・講演会を行い支部会員の資質向上に努めている。
このほか、本会では会員の研鑽・資質向上のため、本部および各支部において記念事業、研究研修会、研修旅行を行う。
会員の福利厚生のために、必要とする事業を行う。
(1) 出版作品の審査を行わない公募展及び会員向け展覧会
① 第二十四回寿書展
会期 平成二十七年十一月十七日～二十二日
会場 電気文化会館
支部展・支部選抜展
第六十一回一宮支部展
会期 平成二十七年十一月二十一日～二十二日
会場 一宮スポーツ文化センター
第四十九回半田支部展
会期 平成二十七年九月
会場 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)
第四十八回西三河支部会員展
会期 平成二十八年二月十七日～二十一日
会場 岡崎市美術館
東三河支部展
会期 平成二十七年六月三十日～七月五日
会場 豊川桜ヶ丘ミュージアム
東三河支部選抜展
会期 平成二十八年二月
会場 豊橋市市民文化会館
濃飛支部展
会期 平成二十七年七月二十四日～二十六日
会場 恵那市文化センター
北勢支部展
会期 平成二十七年七月十八日～二十日
会場 四日市市文化会館
第二十九回中南勢支部展
会期 平成二十八年二月二十七日～三十一日
会場 三重県立美術館県民ギャラリー

- (2) 岐阜支部展
会期 平成二十七年九月
会場 岐阜市市民会館
講習会
北勢(二月)
(3) 研究会
西三河(三月二十七日)安城市文化センター研修会
本部(史跡探訪研修旅行他・時期未定)
一宮(十月)、半田(十一月)、西三河(十月)、東三河(十月)、濃飛(十月)、北勢(十一月)
福利厚生事業
① 塾総合保険
② 会員交流会
老人会色紙贈呈
半田支部においては、例年、地域(半田市・阿久比町・東浦町・武豊町・御浜町・南知多町)の老人会に対して色紙を贈呈して敬老の意を表している。
期日 平成二十七年八月
第六十五回記念中日書道展記念事業
① 特別展覧「時代を拓く大作書展二〇一五」
期日 平成二十七年六月十六日～二十一日
会場 愛知県美術館ギャラリー
② 中日書き初め展受賞作品特別展示
期日 平成二十七年六月十六日～二十一日
会場 愛知県美術館ギャラリー
③ 席上揮毫(中日書き初め展受賞者本会各部門代表者)
期日 平成二十七年六月二十日
会場 愛知県美術館ロビースペース
(8) 社会福祉法人中日新聞社会事業団および社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団以外への寄付
その他各種事業
① 書道に関する調査研究および発表
② 書道教育者の推薦書および看板の交付
③ 外国研修旅行補助
④ 組織拡大事業
・会員章(門章・襟章)の交付
・会員名簿の発行
⑤ 広報活動事業
・中日会報・支部会報の発行
・ホームページによる情報提供
⑥ 資料文献収集保存事業
⑦ 書道功労者等顕彰事業
⑧ その他

第二号議案 平成二十七年度予算(案)に関する件

平成27年度 収

支 予 算 書 (案)

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
公益社団法人 中 部 日 本 書 道 会

備 考

科 目	27年度 予算額 (A)	26年度 予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
1. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入	7,500	7,500	0	3000万×0.025%
① 基本財産運用利息収入	19,000	21,500	△2,500	7600万×0.025%
② 特定資産運用利息収入	12,584,000	12,320,000	264,000	評議員以上11,000円×1144人
③ 1 会 評議員以上会費収入	18,739,000	18,900,000	△161,000	正会員7000円×2677人
2 正会員会費収入	2,865,000	3,250,000	△385,000	正会員5000円×573人
3 協賛会費収入	1,125,000	1,125,000	0	協賛会員250000円×457件
4 事業費収入	35,313,000	35,595,000	△282,000	
④ 1 事 奉仕活動収入	680,000	750,000	△70,000	3000円×200点、会員外4000円×20点
2 支部奉仕活動収入	5,563,000	5,143,000	420,000	支部別内訳参照
3 支部学生活動収入	5,735,000	5,735,000	0	支部別内訳参照
4 支部修習会収入	300,000	300,000	0	支部別内訳参照
5 支部選技展収入	2,261,000	2,121,000	140,000	支部別内訳参照
6 普通教育者連誼会収入	160,000	160,000	0	支部別内訳参照
7 普通教育者連誼会収入	100,000	100,000	0	25000円×4件
8 普通教育者連誼会収入	350,000	350,000	0	
9 普通教育者連誼会収入	300,000	300,000	0	
10 普通教育者連誼会収入	300,000	280,000	20,000	3000円×100人
11 普通教育者連誼会収入	75,000	75,000	0	2000円×150人 (有料25人)
12 普通教育者連誼会収入	48,247,000	47,885,000	362,000	3000円×100人
13 普通教育者連誼会収入	5,824,000	5,824,000	0	2000円×100人
14 普通教育者連誼会収入	4,500,000	4,500,000	0	中日展収入内訳参照
15 普通教育者連誼会収入	16,500,000	16,500,000	0	中日展収入内訳参照
16 普通教育者連誼会収入	2,270,000	2,540,000	△270,000	400円×16000点 (整理費割引)
⑤ 1 寄附金収入	93,185,000	92,583,000	602,000	支部別内訳参照
⑥ 1 普通預金受取利息収入	1,500	1,500	0	
2 普通預金受取利息収入	900,000	0	900,000	27・28年度発行
3 普通預金受取利息収入	400,000	400,000	0	
4 普通預金受取利息収入	95,000	90,000	5,000	一宮文化協会負担金収入
5 普通預金受取利息収入	1,396,500	491,500	905,000	
6 普通預金受取利息収入	1,289,921,000	1,288,698,500	1,222,500	
2. 事業活動支出				
① 1 事業活動経費	1,486,000	1,486,000	0	中日展・寿展
2 事業活動経費	754,000	1,054,000	△300,000	各種謝礼
3 事業活動経費	1,048,000	2,740,000	△1,692,000	賞品代・記念品代
4 事業活動経費	8,044,000	8,654,000	△610,000	支部事業交際費
5 事業活動経費	167,000	532,000	△365,000	作業時交通費
6 事業活動経費	10,867,000	11,926,500	△1,059,500	作業時食事
7 事業活動経費	6,992,900	7,529,300	△536,400	クッキー
8 事業活動経費	1,087,000	3,338,000	△2,251,000	
9 事業活動経費	1,853,700	12,303,500	△10,449,800	
10 事業活動経費	82,000	87,000	△5,000	
11 事業活動経費	1,943,700	3,135,100	△1,191,400	
12 事業活動経費	966,900	2,027,900	△1,061,000	
13 事業活動経費	6,828,000	9,413,000	△2,585,000	
14 事業活動経費	100,000	100,000	0	
15 事業活動経費	320,000	300,000	20,000	
16 事業活動経費	4,380,000	4,321,000	△59,000	
17 事業活動経費	3,870,000	3,870,000	0	
18 事業活動経費	566,000	566,000	0	
19 事業活動経費	100,000	100,000	0	
20 事業活動経費	7,519,000	7,519,000	0	
21 事業活動経費	1,358,000	1,358,000	0	
22 事業活動経費	1,888,000	1,378,000	510,000	
23 事業活動経費	2,842,000	2,217,000	625,000	
24 事業活動経費	16,500,000	16,500,000	0	
25 事業活動経費	2,370,000	2,556,000	△186,000	
26 事業活動経費	0	0	0	
27 事業活動経費	88,933,200	104,201,300	△15,268,100	事業別内訳参照

支 部 別 内 訳	備 考									
	一宮	半田	西三河	東三河	濃 飛	北 勢	中 南 勢	岐 阜	合 計	
1 支部内訳	332,500	101,500	297,500	112,000	42,000	122,500	73,500	455,000	1,536,500	
2 正会員会費	787,500	381,500	773,500	252,000	42,000	213,500	210,000	899,500	3,559,500	
3 連合会費	200,000	127,500	175,000	100,000	62,500	55,000	25,000	62,500	807,500	
合 計	1,320,000	610,500	1,246,000	464,000	146,500	391,000	308,500	1,417,000	5,903,500	
支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃 飛	北 勢	中 南 勢	岐 阜	合 計	
1 支部内訳	690,000	1,078,000	1,530,000	960,000	120,000	160,000	420,000	605,000	5,563,000	
2 支部学生活動収入	1,525,000	1,350,000	2,880,000	0	0	0	0	0	5,755,000	
3 支部選技展収入	0	0	0	300,000	0	0	0	0	300,000	
4 支部修習会収入	820,000	405,000	400,000	0	161,000	275,000	0	200,000	2,261,000	
5 支部講演会収入	0	0	0	160,000	0	0	0	0	160,000	
6 支部祝賀会収入	1,190,000	0	0	0	300,000	200,000	280,000	300,000	2,270,000	
7 利息収入	95,000	100	0	0	0	0	0	0	100	
8 雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0	95,000	
合 計	4,320,000	2,833,100	4,810,000	1,420,000	581,000	635,000	700,000	1,105,000	16,404,100	
支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃 飛	北 勢	中 南 勢	岐 阜	合 計	
1 支部内訳	115,000	65,000	68,000	60,000	55,000	92,000	174,000	159,000	788,000	
2 支部講演会費	0	84,000	0	230,000	0	65,000	0	0	379,000	
3 支部研究会費	0	0	96,000	0	0	0	0	0	96,000	
4 支部研究費	820,000	472,000	407,000	100,000	156,000	279,000	36,000	371,700	2,641,700	
5 支部選技展費	0	0	0	300,000	0	0	0	0	300,000	
6 支部学生活動費	1,820,000	1,350,000	2,844,000	0	0	0	0	0	6,014,000	
7 支部修習会費	315,000	717,000	1,464,000	0	210,000	169,000	286,000	524,500	4,645,000	
8 色紙展費	0	133,000	0	0	0	0	0	0	133,000	
9 普通修習事業費	320,000	0	0	0	0	0	0	0	320,000	
10 周年記念事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11 支部祝賀会費	1,190,000	0	0	0	300,000	200,000	280,000	400,000	2,370,000	
合 計	4,580,000	2,821,000	4,879,000	1,650,000	721,000	805,000	776,000	1,979,700	18,211,700	
支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃 飛	北 勢	中 南 勢	岐 阜	合 計	
1 支部事務所費	1,060,000	655,000	915,000	234,000	102,000	201,000	195,000	1,066,800	4,428,800	
積立金	50,000	50,000	300,000	0	0	30,000	0	0	430,000	
積立金取崩	0	0	0	0	30,000	0	0	0	30,000	
支部収支差額	-50,000	-82,400	-38,000	0	-65,500	-10,000	37,500	-524,500	-732,900	

科目	27年度 予算額(A) 円	26年度 予算額(B) 円	増減 (A)-(B) 円	説明
② 支費				
1 支費	2,041,000	2,041,000	0	支部事務所費含む
2 支費	207,000	207,000	0	
3 支費	104,000	104,000	0	
4 支費	413,000	413,000	0	
5 支費	4,850,000	2,606,000	2,244,000	職員給与・賞与
6 支費	1,080,000	1,600,000	△520,000	臨時職員
7 支費	200,000	200,000	0	税理士・司法書士等
8 支費	1,705,000	60,000	1,645,000	支部賞品代・記念品代
9 支費	115,000	894,000	△779,000	支部賞品代・記念品代
10 支費	903,000	984,000	△81,000	支部賞品代・記念品代
11 支費	2,871,000	2,984,000	△113,000	支部賞品代・記念品代
12 支費	2,237,600	2,390,000	△152,400	支部賞品代・記念品代
13 支費	540,000	581,000	△41,000	支部賞品代・記念品代
14 支費	10,093,000	8,411,000	1,682,000	支部賞品代・記念品代
15 支費	468,000	468,000	0	支部賞品代・記念品代
16 支費	468,000	468,000	0	支部賞品代・記念品代
17 支費	3,276,000	2,953,000	323,000	支部賞品代・記念品代
18 支費	56,452	10,132	46,320	支部賞品代・記念品代
19 支費	396,000	400,000	△4,000	支部賞品代・記念品代
20 支費	6,646,000	6,646,000	0	支部賞品代・記念品代
21 支費	1,626,000	1,627,000	△1,000	支部賞品代・記念品代
22 支費	50,000	50,000	0	支部賞品代・記念品代
23 支費	226,000	236,000	△10,000	支部賞品代・記念品代
24 支費	1,585,000	1,585,000	0	支部賞品代・記念品代
25 支費	50,000	50,000	0	支部賞品代・記念品代
26 支費	18,000	18,000	0	支部賞品代・記念品代
27 支費	800,000	400,000	400,000	支部賞品代・記念品代
28 支費	0	0	0	支部賞品代・記念品代
29 支費	379,200	218,000	161,200	支部賞品代・記念品代
30 支費	0	0	0	支部賞品代・記念品代
31 支費	37,000	37,000	0	支部賞品代・記念品代
32 支費	0	0	0	支部賞品代・記念品代
管理費	42,973,252	38,876,132	4,097,120	管理費目別内訳参照
事業活動収入	131,906,452	143,077,432	△11,170,980	
事業活動収支差額	-1,985,452	-14,378,932	12,393,480	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取得収入				
1 特定資産取得収入	0	2,000,000	△2,000,000	資産取得
2 特定資産取得収入	0	8,500,000	△8,500,000	資産取得
3 特定資産取得収入	500,000	0	500,000	27・28年度用
4 特定資産取得収入	30,000	1,000,000	△970,000	27・28年度用
投資活動支出	530,000	11,500,000	△10,970,000	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
1 特定資産取得支出	72,000	72,000	0	資産積立
2 特定資産取得支出	400,000	300,000	100,000	(平成36年)
3 特定資産取得支出	50,000	50,000	0	一宮 半田 西三河 北勢
4 特定資産取得支出	80,000	80,000	0	27・28年度用
5 特定資産取得支出	0	500,000	△500,000	27・28年度用
投資活動収支差額	952,000	0	△952,000	10万円以上備品
III 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
2 財務活動収入				
3 財務活動収入				
4 財務活動収入				
5 財務活動収入				
6 財務活動収入				
7 財務活動収入				
8 財務活動収入				
9 財務活動収入				
10 財務活動収入				
11 財務活動収入				
12 財務活動収入				
13 財務活動収入				
14 財務活動収入				
15 財務活動収入				
16 財務活動収入				
17 財務活動収入				
18 財務活動収入				
19 財務活動収入				
20 財務活動収入				
21 財務活動収入				
22 財務活動収入				
23 財務活動収入				
24 財務活動収入				
25 財務活動収入				
26 財務活動収入				
27 財務活動収入				
28 財務活動収入				
29 財務活動収入				
30 財務活動収入				
31 財務活動収入				
32 財務活動収入				
管理費	300,000	300,000	0	管理費
事業活動収支差額	-2,707,452	-4,180,932	1,473,480	
前期繰越収支差額	4,769,210	8,950,142	△4,180,932	
次期繰越収支差額	2,061,758	4,769,210	△2,707,452	

(注) この収支予算書は「公益法人会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に關する関係省庁連絡会議幹事会申合せ)の記載の様式による。

科目	27年度予算	26年度予算	増減	説明
中日収入内訳				
1 審査員以上出品料	15,442,000	15,050,000	392,000	14000円×1103点
2 依囑・無鑑査出品料	12,600,000	12,120,000	480,000	12000円×1050点
3 一科出品料	8,730,000	9,000,000	△270,000	9000円×970点
4 二科出品料	5,600,000	5,950,000	△350,000	7000円×800点
5 若年層出品料	2,850,000	2,750,000	100,000	5000円×570点
6 入賞目録	255,000	255,000	0	300円×850名
7 社中広告料	60,000	50,000	10,000	200円×300部
8 協賛店広告料	1,800,000	1,800,000	0	40000円×45件
9 計	910,000	910,000	0	35000円×26件
計	48,247,000	47,885,000	362,000	
事業別内訳				
1 寿喜展費	1,190,000	1,190,000	0	支部は支部別内訳参照
2 講演会費	940,000	901,000	39,000	支部別内訳参照
3 支部研究費	379,000	295,000	84,000	支部別内訳参照
4 支部研究費	96,000	185,300	△89,300	支部別内訳参照
5 支部研究費	2,641,700	2,613,000	28,700	支部別内訳参照
6 支部学生展費	6,014,000	6,333,000	△319,000	支部別内訳参照
7 支部展費	4,645,500	4,602,000	43,500	支部別内訳参照
8 色紙展費	133,000	133,000	0	支部別内訳参照
9 書道教育研修費	772,000	772,000	0	
10 外国研修補助費	100,000	100,000	0	
11 功労者等顕彰費	335,000	335,000	0	教室看板
12 書道教育者養成費	100,000	100,000	0	企画委員会
13 書道普及事業費	366,000	366,000	0	一宮支部
14 奨励補助費	1,105,000	1,105,000	0	
15 書道振興事業費	2,318,000	2,318,000	0	
16 記念事業費	1,111,000	1,509,000	△398,000	中日展
17 情報提供事業	747,000	747,000	0	サ・イ・下運営
18 調査研究費	30,000	30,000	0	
19 資料収集費	60,000	60,000	0	
20 公開講座費	655,000	655,000	0	
21 中日展費	34,734,000	35,212,000	△478,000	
22 中日展費	6,027,000	6,027,000	0	
23 愛の募金費	4,313,000	4,326,000	△13,000	
24 委員会交際費	631,000	631,000	0	
25 本部祝賀会費	16,500,000	16,500,000	0	
26 支部祝賀会費	2,370,000	2,556,000	△186,000	支部別内訳参照
27 計	88,933,200	104,201,300	△15,268,100	
管理費目別内訳				
1 会議費	4,951,000	4,951,000	0	
(1) 6月総会	1,989,000	1,989,000	0	
(2) 5月理事会	1,243,000	1,243,000	0	
(3) 2月理事会・評議員会	1,719,000	1,719,000	0	
2 事務局費	24,239,452	22,069,132	2,170,320	支部別一覽参照
3 支部事務所費	4,428,800	4,522,000	△93,200	支部別一覽参照
4 広報費	410,000	410,000	0	見舞金等
5 会報費	6,900,000	6,900,000	0	在4回発行
6 名簿費	2,044,000	24,000	2,020,000	27・28年度発行
計	42,973,252	38,876,132	4,097,120	
事業及び管理合計	131,906,452	143,077,432	△11,170,980	

平成二十六年
第二回理事会 承認事項
新審査会員・新正会員の承認

審査会員の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会
覧会開催規定第九条の規定によ
り、左記の者を審査会員とし
ての承認の承認を求める。
この承認は平成二十七年四月一
日付けとする。

●一科審査会員

- 第一部(四十名) 天野 梢華 伊藤 龍仙 入谷 霞流 上松 早苗 遠藤 栄久 小野 蹊泉 上小倉 積山 黒川 虚宇 佐藤 華泉 鈴木 花園 仙石 祥香 滝 白雅 田中 石雲 戸松 英峰 中村 香苑 坂野 清岳 村田 竹童 松田 樹幹 村上 史麗 山田 海石 家田 馨子 大崎 水愁 倉橋 松容 高木 紅舟 三橋 紅月 伊藤 芳香 岡本 桃香 川合 探星

- 伊藤 紅樹 猪又 松峰 植田 秀穂 江口 大濤 太田 佳香 加藤 翠影 倉橋 高堂 桜井 柳絮 柴間 秀瑤 鈴木 彩鴻 高桑 嚴風 田中 暁雨 谷川 青楓 戸田 青楓 中島 永溪 林 春翠 立松 翠葉 酒井 光華 中村 和則 中村 智恵美 丹羽 茜麗 波多野 香葉 林 千葉 星野 蘭雪 村瀬 彩光 安田 一絵 山崎 富泉 青山 法子 伊藤 静春 井上 翠 近藤 由紀枝

- 澁谷 鳴風 津田 松鶴 中野 世津香 香村 孤竹 築山 みなみ 山田 希予 岩本 祥龍 武井 岳峰 伊藤 紅樹 猪又 松峰 植田 秀穂 江口 大濤 太田 佳香 加藤 翠影 倉橋 高堂 桜井 柳絮 柴間 秀瑤 鈴木 彩鴻 高桑 嚴風 田中 暁雨 谷川 青楓 戸田 青楓 中島 永溪 林 春翠 立松 翠葉 酒井 光華 中村 和則 中村 智恵美 丹羽 茜麗 波多野 香葉 林 千葉 星野 蘭雪 村瀬 彩光 安田 一絵 山崎 富泉 青山 法子 伊藤 静春 井上 翠 近藤 由紀枝

- 柴田 美由紀 森 笙韻 井上 香苑 田中 幸香 前田 祥石 松下 聖心 村田 籬香 保田 翠苑 石塚 美根子 岡野 敬子 紀藤 捷庵 水谷 有志 鈴木 千恵 大橋 幽徑 桜井 和香 羽柴 苔谷 前田 千登世 村上 薫仍 村松 紫雲 渡辺 桂真 稲垣 竹徑 鈴木 愛

- 正会員の承認に関する件
公益社団法人中部日本書道会定
款第五条一号により、左記の者
を正会員としての承認を求め
る。
この承認は平成二十七年四月一
日付けとする。

- 第一部(一〇九名) 東 智子 池山 咲帆 石崎 翠溪 磯辺 花泉 市川 香雪 岩井 順峰 岩田 有契里 岩田 月扇 森 和泉 森 麗雅 森 晶子 山田 富洲 横江 昌峰 芳村 清苑 赤梅 東風 石川 直美

- 第二部(二十四名) 石川 直美 生駒 遊貴 横山 香雨 山本 瑤扇 山崎 春枝 森川 峻翠 三輪 和泉 宮地 桃泉 水野 文香 右高 夏代 松原 流恵 堀内 鐘圓 堀部 直里 森 規世 吉田 鏡華 安達 鷹 石原 千砂子 井野 華水 正野 力 日高 橘子 青山 正人 石橋 雅舟 榎本 翠峰 河合 邦雲 篠田 仰信 服部 麦円 宮部 政代美

- 第三部(三十八名) 浅野 裕香 石田 恵巳 大澤 香奈 川澄 良子 鬼頭 信子 久世 たか子 古賀 野源太郎 小林 青華 清水 省子 千葉 弘子 土井 秀栖 戸谷 典代 永井 准子 仁張 景星 林 春香 樋口 直美 堀部 直里 森 規世 吉田 鏡華 安達 鷹 石原 千砂子 井野 華水 正野 力 日高 橘子 青山 正人 石橋 雅舟 榎本 翠峰 河合 邦雲 篠田 仰信 服部 麦円 宮部 政代美

- 第四部(九名) 石原 宗久 磯貝 みえ子 井上 龍泉 杉山 貴枝 日高 橘子 青山 正人 石橋 雅舟 榎本 翠峰 河合 邦雲 篠田 仰信 服部 麦円 宮部 政代美

- 第五部(十三名) 浅野 政男 白井 和舟 太田 累淪 小松 象神 鈴木 悠里 牧野 常典

- 岩田 香翠 遠藤 里美 岸本 紫翠 木村 春鶯 久住 珠華 黒田 瑞祥 桑原 寛和 近藤 蕙風 近藤 玲翠 坂部 青障 佐藤 幸泉 澤田 蓉風 島田 牙香 正徳 きみ子 杉山 翠蹊 杉山 游璃 鈴木 高木 田島 一華 坪井 揖溪 遠山 正幸 富永 好子 長縄 奏宇 中村 鸞邑 成瀬 伸芳 西田 海濤 布川 千鶴 長谷川 清光 坂野 幸子 日比野 亜扇 廣間 紫泉 藤田 二郎 船戸 蘭香 船橋 蘭香 久田 奈津希 伴 光玉 藤井 和子 藤本 由華 堀部 直里 堀部 直美 樋口 直美 林 春香 仁張 景星 永井 准子 戸谷 典代 土井 秀栖 千葉 弘子 清水 省子 小林 青華 古賀 野源太郎 久世 たか子 鬼頭 信子 川澄 良子 大澤 香奈 石田 恵巳 浅野 裕香 有賀 慶春 伊藤 正治 岡 有里 川田 敏美 桐山 正美 小出 榮風 後藤 真理 佐伯 恭子 鈴木 桃玲 寺澤 茂子 富田 武夫 永池 真莉子 服部 麗泉 原田 沙季 樋口 紀子 樋口 紀子 森 紗和子 山中 沙佑梨 渡辺 千紘

第六十五回記念中日書道展運営委員会開催

第一事業部長 伊藤 仙游

あちこちで桜の花満開の便りが聞こえる四月四日(土)午後五時から、ホテルキャッスルプラザに於いて第六十五回記念中日書道展運営委員会が開催されました。今年度は名誉副会長榎本樹郎先生・安藤滴水先生及び常任顧問の先生方の御臨席を賜り、理事・監事・各部部长・副部长・主任の先生方・協賛会員の方々など総勢一四九名のご参加を頂く事が出来ました。特に今回から連絡等がスムーズに行なわれる様に、殆どの表具店様に出席して頂くことができ、心より御礼申し上げます。

会議は青木清濤総務部長の進行により開会、理事長鬼頭翔雲先生より、「この運営委員会の開催により第六十五回記念中日書道展がいよいよ始動します。記念事業として、大作展の特別展観、同じく六十五回記念の中日書きぞめ展優秀作品の展示、八十周年ビデオの放映なども実



協賛会員との打ち合わせが念入りに行なわれました

施致します。本年は既に四二八名の新規出品者の申込が有りますが、少しでも多くの皆さんのご出品を戴きたいと思えます。」旨の御挨拶を戴きました。

続いて副理事長兼事務局長伊藤昌石先生より、名誉副会長・常任顧問のご紹介、事務分掌各部部长・副部长のご紹介、ご出席の協賛会員のご紹介等が行われ、第一事業部部长伊藤仙游より第六十五回記念中日書道展日程等の説明が行われました。今年度は都合により、愛知県美術館ギャラリーの開催が一週間遅れ、名古屋市博物館一科展と同時開催となりますのでご注意ください。

この後各部に分かれ熱心な討議が行われ十分な話合の後、小島瑞柳厚生部長の名司会により懇談会が行われました。初めに名誉副会長安藤滴水先生が御挨拶に立たれました。

先生はトヨタ自動車の入社式での挨拶を引用され、「素直に未来に向かって挑戦しよう」と云う言葉は、中日書道展の新規出品の方にも当てはまる。初めてでうれしい気持ちをお忘れずに、中日書道展に挑戦し続けて欲しい。」旨のご挨拶を頂きました。

この後常任顧問黒田玄夏先生の「立春から数えて七回寒さを迎えると春が来る。今年も七回寒さの後桜が満開となり、この桜の様に中日書道展が盛況に開催されることを祈ります。」とのご挨拶により乾杯となり、和やかな空気が広がって行きました。

第六十五回記念中日書道展が盛大かつ順調に開催できますように、皆様方のご協力を心からお願い申し上げます。

第六十五回記念 中日書道展 日程表

四月十三日	月	書類(取扱店へ)	
四月十七日	金	書類搬入(業者)本部へ	中部日本書道会本部
五月八日	金	二科審・依囀・無鑑査・一科二科裏打ち作品搬入	午前九時～午後五時
五月九日	土	二科・鑑審査	一部・二部・三部・四部・五部
五月十日	日	一科・鑑審査	午前九時～午後五時
五月十一日	月	特別賞選考(二科審・依囀・無鑑査)裏打ち作品搬入	午前九時～午後三時 午後四時～午後六時
名古屋市民ギャラリー栄			
六月八日	月	依囀・無鑑査(二部～四部)	搬入 午後一時～午後五時
六月九日	火	(中日賞・桜花賞は愛知県美術館に展示) 展示会役員作品展示	陳列 午前九時半～午後六時
六月十日	水	〃	午前九時半～午後六時
六月十一日	木	〃	午前九時半～午後六時
六月十二日	金	〃	午前九時半～午後六時
六月十三日	土	〃	午前九時半～午後六時
六月十四日	日	〃	搬出 午後四時～午後六時
愛知県美術館ギャラリー			
六月十六日	火	審査顧問・特別出品・一科審査員・二科審査員・依囀(一部・五部)・無鑑査(一部・五部)	搬入 午後一時～午後六時
六月十七日	水	(二部・五部・第六十五回記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞・中日賞・桜花賞を含む) 展示会役員作品展示	陳列 午前十時～午後六時
六月十八日	木	〃	午前十時～午後六時
六月十九日	金	〃	午前十時～午後八時
六月二十日	土	〃	午前十時～午後六時
六月二十一日	日	〃	搬出 午後四時～午後六時
名古屋博物館			
六月十五日	月	一科搬入・陳列	搬入 午後二時～午後五時
六月十六日	火	一科展覧会	陳列 午前九時半～午後五時
六月十七日	水	〃	午前九時半～午後五時
六月十八日	木	〃	午前九時半～午後五時
六月十九日	金	〃	午前九時半～午後五時
六月二十日	土	〃	午前九時半～午後五時
六月二十一日	日	〃	午前九時半～午後五時
六月二十二日	月	休館日	午前九時半～午後五時
六月二十三日	火	一科搬出・二科搬入	一科搬出 午前九時半～正午
六月二十四日	水	二科陳列	二科搬入 午後二時～午後五時
六月二十五日	木	二科展覧会	二科陳列 午後二時～午後五時
六月二十六日	金	〃	午前九時半～午後五時
六月二十七日	土	〃	午前九時半～午後五時
六月二十八日	日	〃	搬出 午後三時～午後五時

※授賞式・祝賀会 六月二十一日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル

第65回記念 中日書きぞめ展

出品点数 16,142点

会期 平成27年3月21日(土・祝)・22日(日) 会場 ナディアパーク 2階 アトリウム

授賞式 日時 平成27年3月22日(日) 午後2時
式場 ナディアパーク 3階 デザインホール



ナディアパークの壁に掲げられた真っ赤な垂れ幕



満員の授賞式会場



書きぞめ展上位入賞者

第六十五回記念中日書きぞめ展を終えて

教育部長 後藤 啓太

平成二十七年三月二十一日(土・祝)・二十二日(日)、名古屋矢場町西、ナディアパーク2Fアトリウムにて書きぞめ展を開催しました。本年は、文部科学大臣賞から記念賞までの八十五点の個人賞をはじめ、名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞までの計一、三五七点の展示をしました。

会場のアトリウムは、ナディアパークの商業施設に隣接していることもあり、また二日間とも良い天気にも恵まれ、五千人を超える方々に高覧いただきました。会場では「素晴らしい作品ばかりで感動しました」「学生の作品とは思わなかった」と多くの称賛をいただきました。また、整然とした美しい陳列にもお褒めの言葉をいただきました。

この学生展を卒業して、六月の本展である中日展に出品される方も増え、この書きぞめ展が意義あるものになっていることが伺えます。本年は、中日展記念事業として、書きぞめ展上位八十五名の作品を愛知県美術館8Fに陳列します。また、六月二十日(土)午前には、文部科学大臣賞、愛知・岐阜・三重の各知事賞、名古屋市長賞を受賞された方々による揮毫会を予定しています。多くの皆様にご高覧いただきましたとお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、休日にも関わらず、多くの協賛会員の皆様に陳列撤去をお手伝いいただきましたこと御礼申し上げます。

これからも本会の学生パワーを発信して参ります。皆様方のご支援を賜りますようお願いいたします。

中日書きぞめ展授賞式を終えて

褒賞部長 武内 峰 敏

記念展を祝うかのように三月二十一日、名古屋市中区で桜が開花したと気象台が発表しました。本州でトップの開花記録です。授賞式当日も、青空が美しい好天となり、デザインホール五〇〇席は、受賞者、保護者の方々に満席となり、第六十五回記念中日書きぞめ展授賞式が開式されました。

松永清石副理事長から主催者の挨拶、受賞者へお祝いの言葉、そして第六十五回記念中日展のイベント内容と盛り沢山のお話をいただき、授与式へと進みました。団体賞・文部科学大臣賞から理事長賞まで一時間にわたり、クラシック音楽が流れる式場で、一八〇余名の一人ひとりに舞台中央で賞状賞品が授与されました。

また、企画委員会の先生方に多数ご臨席いただき、誠にありがとうございました。ございました。

第六十五回記念 中日書きぞめ展入賞者

〈審査〉

平成二十七年一月三十一日(土)、本部に於いて四十五名の審査員によって厳正に審査され、入賞・入選者が決まりました。

文部科学大臣賞を受賞して

半田高等学校 三年 樋口直美



この度は、第六十五回記念中日書きぞめ展におきまして栄誉ある文部科学大臣賞をいただき誠にありがとうございます。

受賞の知らせをいただいた時は、驚きと喜びで胸がいっぱいになりました。これも偏に廣澤凌舟先生の温かく熱心なご指導のおかげと心より感謝申し上げます。

私は高校生になって初めて近代詩文書に挑戦しました。一年生の頃は近代詩文書の書き方に慣れず、どうしたら上手に書けるのか悩み、苦労しました。しかし、毎年作品を制作する度に少しずつ書法に慣れ、試行錯誤しながらではありますが、楽しく作品を仕上げる事が出来る様になりました。今回の出品作は、今までで一番満足できる作品が書けました。しかし、改善点は沢山あると思います。

今後は、より一層、努力精進し、その改善点を一つずつ克服していきたいと思っております。今後共、ご指導の程よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

文部科学大臣賞受賞作品



審査風景

文部科学大臣賞

高校三年 樋口 直美

愛知県知事賞

高校二年 石黒明日香

中学二年 後藤 花梨

岐阜県知事賞

高校一年 落合 輝

中学三年 加藤 理乃

三重県知事賞

小学四年 内田 藍

小学三年 野口 瑞葵

名古屋市長賞

高校一年 岡村実花子

中学一年 西尾 友花

愛知県教育委員会賞

高校三年 深谷 麻実

中学二年 幸野 朱里

岐阜県教育委員会賞

高校二年 間野 貴文

中学三年 中村 萌愛

三重県教育委員会賞

中学三年 竹内 眞彩

小学一年 加藤 亜実

団体賞	
第一位	牛刀会
第二位	童友会
第三位	墨游会
第四位	書玄会
第五位	牧書会

名古屋教育委員会賞

高校一年 大谷 遥香

中学一年 小林 美有

中日書道会賞

高校二年 小栗圭太郎

中学二年 堀田奈菜恵

高校一年 新井 千晴

中学三年 石原 稜子

中学二年 深谷 侑以

小学一年 岩谷 梨瑚

小学六年 清水 美帆

小学五年 吉田 多映

小学六年 水谷 唯花

小学三年 市橋 歩大

東海テレビ放送賞

高校二年 田淵 芽子

高校一年 中村南名子

中学三年 杉山堅志郎

中学二年 大沢 朋徳

小学六年 岡 あかね

小学六年 榊原 光輝

小学六年 佐藤 菜保

小学二年 都築 祐賀

小学二年 久野 真子

小学二年 海田さらり

小学二年 大竹 汐緒

小学二年 前田 悠有

小学二年 池田 恭子

小学二年 小栗 礼登

小学二年 森田 雅菜

小学二年 栗木 将弘

小学二年 金川 春奈

小学二年 岩外 双葉

小学二年 芝 優里花

小学二年 錦見 彩那

小学二年 堤 優衣

記念賞

小学六年 青山 陽哉

小学六年 阿部 康平

小学六年 青山 陽哉

小学六年 阿部 康平

愛知県知事賞 高二 石黒明日香
 茲容麻佐鉅鏢魏
 盛藏河東障法

愛知県知事賞 中二 後藤 花梨

富士山雲海

愛知県知事賞 小五 平本 啓恭

百花歌う

岐阜県知事賞 高一 落合 輝

逢昌逢幸湯誠心
 為國造石窟 輝臨

不断の努力

岐阜県知事賞 小六 小笹 文楓

真の友情

三重県知事賞 小四 内田 藍

力強い技

三重県知事賞 小三 野口 瑞葵

大きい力

三重県知事賞 小二 大鹿 遥

ふじさん

名古屋市長賞 高一 岡村実花子

将来不欠惜哉觀
 樂生遺燕忠 火院子臨

富士の初夢

名古屋市長賞 小五 稲葉 朱里

希望の光

名譽會長賞

○高校三年 池内 友音
 城川 薫乃
 菊川 華
 小宮 修平
 佐野 愛実
 清水あいか
 高田 有紗
 豊島 里帆
 中野 美咲
 中村 安希
 林 慶将
 古橋 奈子
 松下 優
 松波 俊樹
 村尾 亜子
 弓 万里奈
 ○中学一年 池田安里紗
 加藤 千紗
 金野 信之
 鈴木亜紗花
 竹内 稜人
 棚橋 史佳
 柘植あゆみ
 辻本 望叶
 永家 汐菜
 早川 幸穗
 林 祐衣
 原田由葵乃
 舟橋亜梨沙
 村瀬 智紀
 ○小学六年 江本 陽佳
 片山 侑花
 加藤 純
 坂下 彩音
 田牧 侑七
 中川 朋花
 花井 由意
 林 麻琴
 村上 ゆり
 南山 めぐみ
 荒川 遥海
 有馬 美都
 安藤 裕基

○高校二年

宇都 愛梨
 遠藤 昂晶
 川尻 真彩
 熊崎 千佳
 谷口佳奈絵
 成瀬 千夏
 野村 祐衣
 廣瀬由希菜
 真野 綾花
 宮本 千晴
 安田 汐里
 ○高校一年 大橋 佳歩
 可兒麻衣子
 鈴 友伽
 高橋うらら
 松本 紗南
 渡辺あさき
 ○中学三年 青木 隆憲
 池田 真大
 池之上美玖
 伊藤あかり
 海老さくら
 太田 菜月
 鈴木 麻紘
 嶽本 達哉
 田中 美有
 千葉 由佳
 遠津 詩乃
 中津 遼香
 新美 佑馬
 山田 悠乃

○小学五年

渡邊 七海
 石倉 杏美
 小出 衣織
 小林さくら
 高木はな華
 榎本 慧
 中内 美京
 ○小学四年 恒川 奈弓
 福富 琴梨
 松波 倫子
 松本 琉斗
 水野まほろ
 ○小学三年 西川 純令
 円山 花央
 宮崎 咲羽
 ○小学二年 甲山 莉子
 近藤 要太
 瀬原和花子
 高橋 歩子
 竹内あずさ
 鈴木 莉乃
 鈴木 沙季
 後藤 耀華
 川村 友愛
 荻原 真央
 勝田 真央
 加藤 百華
 伊藤野々花
 石島 史織
 阿部 日南
 ○小学一年 米川 幸来
 吉田あつみ
 山田 彩夏
 森井 琴美
 村上 遼馬
 宮崎 由奈
 林 美幸
 南谷恵里佳
 中西 誠
 杉浦 芹奈
 内藤 有紀
 堤 佳穂

理事長賞

久野 真帆
 ○幼年 佐橋 苑華
 ○小学一年 安藤 希
 ○小学二年 宮崎 咲羽
 ○小学三年 中村 樺純
 ○小学四年 井上 みき
 大橋 拓実
 近藤 奈月
 島田 亮子
 杉浦 果奈
 鈴木 智子
 竹内 奏絵
 時松 愛佳
 成澤 香那
 服部 夏野
 布川 舞
 藤江 美羽
 細野 春菜
 ○小学二年 安藤 里咲
 今井 芳美
 梅村 光紀
 大嶽 里沙
 小野田いおり
 加子 悠華
 嘉本 悠加
 川村めぐみ
 近藤 真帆
 菅沼 恵和
 高橋 恵和

○小学六年

山田 真穂
 森 采音
 宮坂 将也
 廣川 瑞樹
 濱田 紗希
 二所宮 彩
 西川 未彩
 中野 響子
 内藤素代佳
 徳永 啓人
 西田虎次郎
 野田明咲輝
 村山 佑菜
 渡辺 好珠
 ○小学六年 青山 涼
 赤塚 瞳
 安藤 真央
 安藤有里奈
 伊藤 綾那
 井上 豊隆
 岩田 美結
 太田 千明
 奥村 悠悟
 小野 菊乃
 木下琳々香
 国枝 萌美
 齊藤 夏渚
 酒井 莉子
 田中 楓乃
 中野 留美
 中村 彩花

○中学二年

安藤 裕基
 有馬 美都
 荒川 遥海
 青山 夏海
 中山 悠乃
 新美 佑馬
 中津 遼香
 遠津 詩乃
 千葉 由佳
 田中 美有
 嶽本 達哉
 鈴木 麻紘
 太田 菜月
 海老さくら
 伊藤あかり
 池之上美玖
 池田 真大
 青木 隆憲
 渡辺あさき
 松本 紗南
 高橋うらら
 鈴 友伽
 可兒麻衣子
 大橋 佳歩
 金野 信之
 鈴木亜紗花
 竹内 稜人
 棚橋 史佳
 柘植あゆみ
 辻本 望叶
 永家 汐菜
 早川 幸穗
 林 祐衣
 原田由葵乃
 舟橋亜梨沙
 村瀬 智紀
 江本 陽佳
 片山 侑花
 加藤 純
 坂下 彩音
 田牧 侑七
 中川 朋花
 花井 由意
 林 麻琴
 村上 ゆり
 南山 めぐみ
 荒川 遥海
 有馬 美都
 安藤 裕基

中日書道會賞 高二 小栗圭太郎
 應酬錄以願述
 晨登像蓮

中日書道會賞 高二 堀田奈菜恵

中日書道會賞 高一 新井 千晴
 不道揚卷道吉情極勝生酒萬幾有
 安社物典年流我御香旋是富會侍托
 子化 聖二時新時不年新時八種遠本本富中道
 子化 聖二時新時不年新時八種遠本本富中道

中日書道會賞 中三 石原 稜子

中日書道會賞 中三 深谷 侑以
 新春福祿寿

中日書道會賞 中二 岩谷 梨瑚

中日書道會賞 中二 山本 美風
 真理の追求

中日新聞社賞 高二 福田 隆太

中日新聞社賞 高二 山本 彩織
 臨危槍矚履尾心
 團空與輕騎

中日新聞社賞 高一 服部 美樹

中日新聞社賞 高一 服部 美樹
 天然冰絮簡靜道
 行寧淳粹之徳

中日書道會賞 小六 吉田 多映

中日書道會賞 小六 吉田 多映
 温故知新

中日書道會賞 中一 清水 美帆

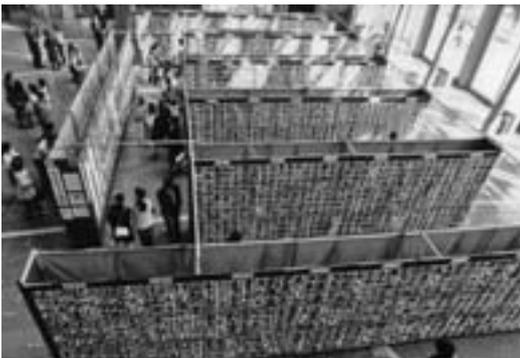
中日書道會賞 小五 水谷 唯花
 希望の年

中日書道會賞 小五 水谷 唯花

中日書道會賞 小五 水谷 唯花
 伝統を守る

中日新聞社賞 高二 木和田 妙

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|
| 河本 雪乃 | 木内 愛弓 | 久野 愛実 | 黒田 瑛太郎 | 桑山 凱斗 | 齊藤 春果 | 阪本 真由 | 坂山 葵匠 | 重松 想葉 | 柴山 遥香 | 菅谷 郁美 | 鈴木 麻椰 | 角谷 美咲 | 高松 宣道 | 武内 晶子 | 竹内 舞 | 多湖 友香 | 長尾 真子 | 中島 美花 | 成田 響 | 西野 ちなせ | 野田 紗也香 | 長谷川 史華 | 林 歩乃佳 | 平賀 蓮 | 福井 亜弥 | 藤原 亜衣 | 堀田 ひな | 牧野 蒼 | 正木 康大朗 | 箕浦 つぐみ | 宮木 寛乃 | 村田 妃優 | 山田 無双 | 吉見 朱日佳 | 渡邊 帆乃花 | 青鹿 由依 | 天谷 温 | 生駒 祐奈 | 石田 千紗 | 石原 奈都音 | 五十川 真緒 | 市橋 宙大 | 井上 晶絵 |
| 井村 郁実 | 上村 沙藍 | 大倉 歩生 | 大城 愛梨 | 太田 楓華 | 大野 美月 | 大橋 美月 | 小畑 明日香 | 尾畑 秀成 | 加藤 麻衣 | 河合 菜々子 | 木下 歩美 | 櫛田 実柚 | 黒田 ミユ | 小池 里桜 | 近藤 葵 | 阪上 珠基 | 坂元 秀斗 | 佐橋 春香 | 柴田 裕平 | 柴田 莉帆 | 庄田 乃絵 | 白木 友梨 | 田口 祥 | 立岡 真奈 | 富田 英愛 | 鍋田 萌子 | 新山 佳穂 | 西垣 朱梨 | 西川 優麻 | 野口 菜々美 | 林 千晶 | 深谷 綾 | 溝口 大 | 六鹿 蘭 | 村田 琴美 | 安江 奏南 | 山口 紗也加 | 横山 莉子 | 吉田 涼翔 | 吉戸 菜月 | 稲山 京香 | 岩内 ひかり | 牛山 由衣 |
| 江川 心茜 | 岡田 遥香 | 小川 紗矢 | 奥田 由貴 | 川瀬 愛加 | 齊藤 瑞季 | 世古 宗 | 高崎 桃音 | 永田 彩乃 | 永田 結愛 | 野崎 理子 | 平野 愛実 | 廣瀬 大輝 | 水野 杏胡 | 水野 風紗 | 溝口 絵梨 | 三輪 さくら | 村井 千里 | 柳中 美里 | 山中 直之 | 赤池 香保 | 庵 百花 | 石原 慎也 | 今村 綺希 | 大野 未莉 | 加藤 咲穂 | 粥川 黎哉 | 川口 くるみ | 河西 津夢美 | 川辺 美琴 | 小林 実央 | 坂谷 凌玖 | 佐藤 優成 | 竹本 英那 | 西脇 有紗 | 平野 眞生 | 舟橋 優 | 逸見 琴子 | 門前 美佑 | 柳澤 心那 | 石田 愛萌 | 大久 さくら | 荻原 和馬 | |
| 片桐 瑠以 | 加藤 日那 | 加藤 乃実 | 加藤 怜子 | 塩谷 和真 | 高橋 陸翔 | 津志 桃愛 | 中西 真尋 | 丹羽 泉乃 | 丹羽 峻馬 | 野田 桃加 | 藤村 真央 | 三宅 慶輝 | 宮崎 風花 | 山本 菜椰 | ○小学二年 | 安藤 璃音 | 鬼頭 莉央 | 後藤 謙心 | 高見 菜子 | 野々川 莉央 | 波多野 熙秀 | 日沖 望乃 | 福島 航太郎 | 福富 心音 | 吉澤 祐奈 | ○小学一年 | 新井 本佳和 | 小野 美結 | 鈴木 璃子 | 恒川 尚也 | 高橋 玲那 | 加藤 優奈 | 加古 希乃 | 加川 彩乃 | 小川 真里奈 | 大友 綾奈 | | | | | | | |
| 深谷 寧音 | 服部 美鈴 | 服部 真由 | 中村 結衣 | 中谷 愛音 | 長尾 春奈 | 仲 葉里 | 富田 啓 | 柘植 結帆 | 田中 香帆 | 田代 京香 | 田島 志保 | 相馬 有紀 | 神野 唯 | 佐久間 瑞季 | 酒井 雛 | 小林 加奈 | 黒田 佑香 | 川島 美咲 | 上ヶ平 瑠奈 | 加藤 玲那 | 加藤 優奈 | 加古 希乃 | 加川 彩乃 | 小川 真里奈 | 大友 綾奈 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



展示風景

CBCテレビ賞 中三 佐原 由莉
不断の努力

CBCテレビ賞 中三 菱田 美羽
初富士新雪

CBCテレビ賞 中三 山田 美咲
親往時以自戒

CBCテレビ賞 中二 芝 優里花
意氣軒昂

CBCテレビ賞 中二 錦見 彩那
春山草木新

CBCテレビ賞 中一 堤 優衣
花鳥風月

CBCテレビ賞 小六 青山 陽哉
富士初雪

CBCテレビ賞 小六 阿部 康平
少年大志

記念賞 中三 岩外 双葉
切磋琢磨

記念賞 中三 金川 春奈
龍池望五雲

記念賞 中三 栗木 将弘
龍池望五雲

記念賞 中三 森田 稚菜
登頂雪山嶺

記念賞 中二 池田 恭子
力強い前進

記念賞 中二 小栗 礼登
魯郡開國

記念賞 中一 大竹 汐緒
初春の夢

記念賞 小六 海田きらり
夢の実現

記念賞 小二 久野 真子
ゆきやま

記念賞 中二 前田 悠有
龍池望五雲

柳詰 由乃 悠楓 山浦 悠楓 山田 愛琴 山田 快音 山田 真子 八幡 雅大 横山あずさ 六鹿 茜 安達 万結 阿保 彩巴 荒井 颯斗 新井 和花 伊藤 鳳我 井波 瑠姫 井深 大樹 今井 美穂 杉山 智紀 杉本 真帆 清水 智広 柴田 結有 後藤 美咲 後藤 結有 黒川 陽莉 小坂 浩太郎 熊野 悠希 櫛田 羽納 木村 結夢 河内 結夢 奥村 有梨奈 岡原 月渚 岡田 涼那 太田 琉那 高垣 柊志 高田 一成 高田 明日香 田上 明香 谷本 沙紀 田宮 朱梨 戸田 碧 中西 麻奈美 野村 真佑 長谷川 実咲 林 大智 日比野 萌子 古崎 陽一 本多 康誠 松井 友香 水野 涼子 皆本 愛美 村上 翠

諸戸 有彩 山崎 郁 山崎 綾乃 横山 心翔 吉村 三年 浅野 真矢 伊藤 愛未 伊藤 遥奈 伊藤 緋梨 岩田 恵里 太田 美住 太田 若奈 小田 若奈 角田 麻桜 加藤 未来 北川 美沙希 蔵 蓮 黒木 蓮 小林 りか 齋藤 志帆 庄田 祐良 高山 陽菜 城 有里奈 辻 裕晶 津村 真緒 鶴見 心菜 中川 弥来 平川 天真 福山 奈緒子 藤墳 奈実 松島 萌子 森 依実 矢永 千尋 山口 杏奈 山岸 諒子 横井 璃子 横井 二年 荒井 秋子 荒井 秋子 池田 美咲 石井 陽菜 市川 創太 稲垣 心葉 小川 真音 加藤 那月 加藤 佳

応募点数.....	16,142点
入賞数	
文部科学大臣賞.....	1名
愛知県知事賞.....	3名
岐阜県知事賞.....	3名
三重県知事賞.....	3名
名古屋市長賞.....	3名
愛知県教育委員会賞.....	3名
岐阜県教育委員会賞.....	3名
三重県教育委員会賞.....	3名
名古屋市教育委員会賞.....	3名
中日書道会賞.....	10名
中日新聞社賞.....	20名
東海テレビ放送賞.....	10名
CBCテレビ賞.....	10名
記念賞.....	10名
名誉会長賞.....	100名
理事長賞.....	128名
推薦.....	348名
奨励賞.....	696名
特選.....	1,251名
準特選.....	4,829名
準逸.....	4,044名
佳作.....	3,170名
入選.....	1,491名

宮原 佑緋 宮川 詩唯 水口 ひなた 増田 佳穂 藤木 みのり 野村 優希 中村 葵 富樫 美心 戸口 ゆずな 鐵具 愛華 田島 咲子 重本 あみ 近藤 大智 河崎 敦也 山口 野々葉 山口 翔太 山田 乃愛 山田 茜音 吉岡 茜音 稲山 朋香 杉村 蓮里 林 壯馬 平野 千佳 松井 彩葉 間宮 彩葉 矢嶋 紗由菜

国外旅行研修補助制度のご案内

本会では、会員（準会員・正会員）が、視野を広め、見識を高め、教養の向上をはかることを目的に外国旅行をする場合、その費用の一部を補助する制度があります。

①補助の対象者

会員期間が満十年以上の者とする。

②補助金額

旅行先及び旅行日程にかかわらず二万円とする。

③補助回数

会員期間中一回とする。

④申請等の手続き

補助を受けようとする場合は、外国研修旅行補助申請書を提出する。

・申込期日

原則として旅行予定日の一ヶ月前までに提出する。

・旅行の変更

旅行の予定変更又は中止の場合は、直ちに外国研修旅行変更（中止）届を提出する。

・添付書類

旅行費用を払い込んだ会員は、申請書に受領書（旅行先・日程等明記）又はその写しを添付する。

・補助金の交付

申請書を審査し、適格者に対して銀行振込により交付する。

・事後報告

旅行を終了した会員は、速やかに外国研修旅行終了報告書を提出する。

⑤補助金の返還

補助金を交付した後に、旅行中止の場合は、補助金は変換させるものとする。

会員の皆様は、この補助制度を大いに利用して下さい。

担当 総務部

塾総合保険のご案内

会員各位におかれましては、平素より書道芸術の高揚および、書道教育の振興普及に専心されておられることと、推察いたしております。

さて、書道教育普及のためにご指導いただいている先生方に、塾生の万一の時に備えて塾総合保険への加入をおすすめ致します。

この保険は本会と保険会社が直接契約しているものであるため、少人数での加入ができて、一人年額一二〇円程で大きな保障が得られます。保険期間は十月一日から翌年十月一日までとなります。すでに加入中の先生方には八月中旬に書類をお送りいたしますので、お忘れのないよう契約更新をお願いします。尚資料請求、又は新規お申し込みの方は、本部までご連絡下さい。

担当 厚生部

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものがあります。（左記参照）

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

- 書道教室推薦証等交付申請書 一通
- 申請書は本部へご請求下さい
- 推薦証（別記）
- 推薦看板（写真）
- アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。
- 申込資格
- 申込資格
- 推薦手数料 二五、〇〇〇円（承認後ご連絡いたしますので振替用紙にてお振込み下さい。）

担当 教育部

公益社団法人

中部日本書道会推薦教室

指導者 ●●●●●

第●●●号

推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会

第 号

※このページに関する質問等は本部事務局迄連絡下さい。

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名 (姓名) (電話番号 - -)

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名	
教室住所	〒
ふりがな	
指導者名 (申請者名)	中日書道展格 資
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 平成 年 月 日
交付年月日 平成 年 月 日
交付番号

支部だより (平成二十六年度) 下半期

一宮支部

●研修旅行

日時 平成二十六年十月二十六日(日)
 行先 京都方面
 参加者 一二七名(会員外三六名)

朝七時三十分一宮を出発。名神高速道路を走り「京都国立博物館」へ。平成知新館オープン記念展「京へのいざない」を鑑賞し、その後、「がんこ高瀬川「一条苑」にて懇親昼食会。午後からは、南禅寺周辺を思い思いに散策し、深まり行く秋を味わいました。

●第六十回一宮支部展

会期 平成二十六年十一月二十三日(土)～二十三日(日)
 会場 一宮スポーツ文化センター
 出品者 支部員 二四二名
 青年部 個人八名 二団体 九八名

一宮市芸術祭参加事業の一環であり、本部からは理事長鬼頭翔雲先生はじめ、副理事長の松永清石先生、関根玉振先生、伊藤昌石先生より賛助出品を賜りました。今回は、支部創立六十周年記念行事として、支部展作品集を作成しました。

●一宮支部創立六十周年記念特別展

「次代を担う青少年に贈ることば」展

《支部展と同時開催》

一宮市内の多くの小・中学校より「学校としての作品」をご揮毫ご出品いただきました。それぞれの作品には、先生方の温かいお心とメッセージがこめられ、大きな感動と力強い励まし、そして夢と希望を戴きました。

●第四十三回一宮支部学生書道展

総出品点数 三、八九二点

今回は、「次代を担う青少年に贈ることば」展と学生書道展を交互に織り交ぜなが

らの展示となりました。会場は多くの方々で賑わい、「目の勉強」のみならず、書を通して学校とのふれあいもでき、貴重で充実した時を過ごすことができました。

《支部展と同時開催》

●支部講演会

日時 平成二十七年二月一日(日)
 会場 一宮スポーツ文化センター
 講師 本会顧問 倉重拜石先生
 演題 「かな書道の勉強方法」

聴講者 一八三名(会員外三六名)
 かな書道の基本である「三角法散らし」による美しい表現方法をはじめ、「空間美」や「リズム」、そして「縦横の流れ」等その他多くのお話を、親しみ易い独特の口調で拝聴でき、貴重な学びの場となりました。



講演会

●支部集会・交流会

日時 平成二十七年二月一日(日)
 会場 支部集会「一宮スポーツ文化センター」
 交流会「真清田神社参集殿」

参加者 支部集会「一三六名 交流会「二六名」
 集会は、本部より副理事長松永清石先生、副理事長兼事務局長伊藤昌石先生にご臨席賜り、報告事項と二十七年の事業計画が承認されました。また、役員改選があり、次期支部長に岩田潤流氏を再選致しました。

交流会は、本部の先生方に加え、地元国会議員、前一宮市長、県会議員等多くの御来賓の方々をお迎えし、和やかに開催致しました。

半田支部

●研修旅行

日時 平成二十六年十一月十六日(日)
 行先 「宝塚・神戸の旅」
 鉄斎&白鶴美術館を訪ねる

参加者 四十二名

本年は、出発そうそう東名阪道で交通事故発生による大渋滞で一時間三十分遅れになり前途多難の様相でした。宝塚に着くなり、すぐに昼食しかし、この食事が大変美味しく好評でした。「がんこ宝塚苑」

鉄斎美術館では、富岡鉄斎没後九十年「鉄斎―書簡が語る名作秘話―」が開催中。鉄斎の現存する書簡は三十代から八十九歳で没するまでの約六十年間にわたり、人間鉄斎が映し出されていました。また、多くの書画の中でも特に鉄斎が筆を携え赴いた



支部研修旅行「宝塚・神戸の旅」

先で揮毫した大作屏風「富士山図」(右隻)は、鉄斎芸術の神髄である書画でした。次に白鶴美術館参観です。「観古」いにしえをみる―と題し中国と日本の古美術品の展示があり、商周時代の青銅器、殷墟の出土器を含む形・文様・銹色ともに美しい逸品を鑑賞後、時間が無くなり後ろ髪を引かれながら帰路へ。

●支部集会

日時 平成二十七年三月十五日(日)
 会場 半田市福祉文化会館

参加者 七十一名

本部から鬼頭翔雲理事長、伊藤昌石副理事長兼事務局長にご臨席頂き、二十六年事業報告・会計中間報告、二十七年事業計画・予算報告があり承認

講演会(八十八名)

集会后、同会場で本部顧問の武山翠屋先生によるご講演「良寛さま・その心にふれる」

繊細であり又大胆なゆつたりした筆遣いから、張り詰めた緊張感ある楷書まで多様な書体

から考察した良寛さまの人格、そして自分に対する苦行期の心の動き「唱導詞」・「僧伽」について、良寛さんと貞心尼との歌から伝わる魂と魂の交わりについてなどご講演を賜りました。



講演会

西三河支部

●研修旅行

日時 十月二十九日(水)
行先 木曾路へ
参加者 四十名
木曾路馬籠の島崎藤村記念館、熊谷守一美術館を見学し、親睦を深め楽しい一日を過ごすことができました。



研修旅行



支部会員展

●支部会員展

会期 二月十八日(水)～二十二日(日)
会場 岡崎市美術館
出品者 二〇四名
入場者 九二三名
本部より理事長、副理事長の賛助出品を頂き、盛大に開催できました。



支部会員集会

●支部会員集会

日時 二月二十一日(日)
会場 岡崎商工会議所
参加者 九五名
本部より鬼頭翔雲理事長、関根玉振副理事長のご臨席を賜り、事業報告、会計報告、事業計画、役員改選等が承認されました。新支部長には山口律舟支部長が誕生いたしました。

●講演会

日時 二月二十一日(日)
会場 岡崎商工会議所
参加者 一一六名
講師 徳川美術館学芸部長 四辻秀紀先生
演題 文房四寶明時代の墨について
徳川美術館文房四寶の収蔵品は多く、中でも墨は多くを収蔵し、手入れと保存管理難しさを知ることができました。墨の奥深い話が聞けて大満足でした。



四辻秀紀先生の講演

●交流会

日時 二月二十一日(日)
会場 岡崎商工会議所
参加者 一〇九名
会員相互の親睦が図れ楽しい時間を過ごすことができました。



会員相互の交流会

●研究会

日時 三月二十九日(日)
会場 安城市文化センター
参加者 一二一名
日頃の作品の取組みを社中外の先生にご指導を受けることができ、新たな気持ちで作品作りの心構えができたようでした。



支部会員集会

東三河支部

●研修旅行

日時 平成二十六年十月二十六日(日)
行先 静岡県周智郡森町 アクティ森 静岡県掛川市 掛川城
資生堂企業資料館
資生堂アートハウス
参加者 三十四名
アクティ森では、「和紙のカレンダー作り」「パンダナの草木染め」「マグカップの絵付け」の三グループに分かれて体験活動に取り組みました。しばし時を忘れての作品作りはともいひと時でした。

「掛川城」に向かう途中、小国神社門前のこんにゃく料理のお店に立ち寄りヘルシーな昼食を楽しむことができました。
掛川城の天守閣で説明を聞き、二の丸御殿を見学してから、再びバスに乗り資生堂アートハウスへと向かいました。
広い芝生が広がるエントランスを進み、まず資生堂企業資料館を見学しました。資

研修旅行 (体験風景)



研修旅行



●支部選抜展

生堂が生み出した様々な商品や関連資料が展示され、女性には大変興味を惹かれるものでした。一度外に出て芝生広場を進むとアートハウスがあります。近代以降日本人作家によって制作された作品を多く収蔵しており、日本画、現代美術、現代工芸等、様々な作品に出会うことができます。当日は企画展「小村雪岱展」が開催されており、挿絵原画や装幀本、版画等の数々作品を鑑賞することができました。

会期 平成二十七年二月三日(火)～二月八日(日)
会場 豊橋市民文化会館
出品数 五十九点
入場者 五八四名
顧問の寺田樹風、星川双嶺、村田華穂、権田穂園各先生方、参与の鈴木瑞象、内藤大旺各先生方に玉作を出品していただき、各社中からは会員数の三分の一が作品を出品しました。会場には個性あふれる作品が並び見応えのある展覧会になりました。中日書道会の先生方や地元の方々の書道を愛する方々にご来場をいただき、またご指導を賜り、出品者一同思いを新たに致しました。



選抜展 会場風景

濃飛支部

●研修旅行

期 日 十一月十三日(木)

行 先 浜松方面

バスでの研修旅行、六時五十分下呂を出発し中津川、恵那市を通り中央道へ、東海環状伊勢湾岸―東名を通り浜松ICで降りました。

最初に浜松市楽器博物館を見学しました。ここには世界の様々な珍しい楽器が集められ展示されていました。会員の皆さんは珍しい楽器を叩いたり弾いたりして音色の美しさを楽しんでいました。体験ルームでは好きな楽器を使って曲を演奏していました。ピアノの街浜松、楽器の市浜松さすがだなと思いました。昼食の後は加茂真淵記念館を見学しました。真淵の生家は道路ぞいの平地にありましたが戦争で焼かれてしまいましたので、高台の懸居神社の近くに祈念館が建てられました。館長さんが駐車場まで迎えに来てくださり、急勾配の坂を登りました。館内に通して戴き説明をお聞きました。真淵は何でも知りたがり屋で探究心旺盛学問一筋に生きた人でもあった様です。沢山の資料が並べられ興味深く拝見致しました。江戸時代の中期、古典を研究し



学を樹立した真淵は歌人でもあり沢山の短歌が残されていました。

「小夜更けて松風高き山寺の月はうき夜の塵も曇らず」(享保十四年 真淵三十三才) 等有名な短歌が沢山残されていました。真淵の人柄や生き様にふれた思いで心を残しながら記念館を後にしました。今年が開館三十周年で資料も沢山集められていた様です。次に浜松美術館も見学しました。見学場所が多く次から次へと大変でしたが研修にふさわしいバスでの旅が出来ました。会員以外の方も含め二十名の参加を嬉しく思いました。

●広報委員会

二月一日第四号の発行をめざし十二月二十四日を初回として、四回行いました。

●企画委員会、役員会

二十七年年度の事業活動、予算、今年役員改選の年であり支部長に石原聲風を選び、あと人事の改選が行なわれました。四回程の会議を持ち二十七年年度へ向ってスタートを切りました。

北勢支部

●支部研修会

平成二十六年年度中日北勢支部研修会は、十一月九日(日)にバス旅行として京都に行きました。当日は朝から生憎の天候でしたが思ったほど大降りにはならず、参加者四十名楽しい一日を過ごすことが出来ました。

行程は、まずは住友コレクションを所蔵する「泉屋博古館」にて中国青銅器並びに企画展「屏風で楽しむ京・名・物」を鑑賞しました。青銅器・鏡鑑は常設展示ですが内容が豊富で数量も多く、一つ一つじっくりと鑑賞する時間が無くや残念でした。個人的に再度訪問したいという気持ちになりました。昼食は東急ホテルで美味しいランチ、午後は嵐山に行きました。嵐山では小倉百人一首の殿堂「時雨殿」を鑑賞しました。開館してまだ三年の新しい施設で、百人一首の歌人たちを忠実に再現した歌仙人形や歌の場面をイメージしたジオラマなどを通じて百人一首の多彩な魅力を紹介していました。改めて知らないことばかりで自分の勉強不足を感じました。二階では女性作家の書の個性もやっつけていい刺激になりました。そ



の後帰りの集合時間が十六時なのでそれまでの間は小雨が降る嵐山を散策や買い物に楽しみました。参加された皆様ご苦労様でした。

●講習会

日 時 二月十五日(日)

場 所 じばさん三重

参加者 四十名

三重県の伝統文化である「自分の書を伊勢型紙に」をテーマに、伊勢型紙保存会会長六谷泰英氏と伝統工芸士の内田勲氏をお招きして講習会を開催しました。

江戸時代に着物の小紋の型として発展したものを継承し、今に伝えてみえる先生方です。四つの彫刻技法



の中から「引き彫り」という技法を使い、各自が用意した書を皆さん真鍮な眼差しで彫り上げました。そして出来たものを台紙に貼って完成です。書体も文字も様々な作品を並べると、伊勢型紙による素敵なアートとなりました。参加者の皆さんも楽しい時間と作品の出来栄えに満足された様子でした。次回の支部展で展示する予定です。



中南勢支部

●中南勢支部展

例年の如く本年も三重県立美術館、県民ギャラリーを借り、一月二十八日より五日間の日程で支部展を開催致しました。古典を中心とした漢字の表現、日常的な表記法を用いた漢字仮名交じりの調和体、会場の中心には広げられた卷子と帖、後ろを振り返れば篆刻の作品があり、来場された皆様も満足されたものと思っております。

●支部役員会

三月十二日(木)

役員七名の出席で平成二十七年度の新役員決定・事業計画について検討しました。

研修旅行を例年より時期を早め五月に実施します。京都に出掛けますが、目的は「扇子に文字を書こう」です。色とりどりの扇子にそれぞれお気に入りの文字を書き次回の支部展に展示します。研究の要素を入れた研修旅行になるよう昨年より企画しています。

あと二年で三十回の記念です。その記念展に向け、会員一同頑張っております。



支部展会場

岐阜支部

●研修旅行

日時 十一月二十八日(金)

晩秋とは云え穏やかな行楽日和、参加者三十五名で、宇治平等院と佐川美術館を訪れました。

今年九月に改修が終わり、新たな「平等院鳳凰堂」は、一〇五二年に創建。浄土の宮殿をモデルにしたとあって、建築様式全てが贅を尽くして美術化し、鳥が左右に羽根を広げて舞うが如く、華麗で荘厳な建物です。

時間の都合上堂内を見学することは出来ず隣接の鳳翔館を拝観しました。

館内には様々な宝物類が保存展示しており、中でも雲中供養菩薩像二十六体の楽士たちの様々な表情の姿態は何を表現しているのでしょうか。私達には想像もつきませんが信



平等院鳳凰堂にて

仰心、精神の相違を感じられます。

一路、滋賀県へと向かい、佐川美術館を見学しました。佐川美術館は、琵琶湖に隣接して建てられ落ち着いた斬新な建物です。

館内には日本画家の平山郁夫氏、彫刻家の佐藤忠良氏、陶芸家の楽吉左衛門氏と三氏とも、日本を代表する芸術家であり、それぞれ、個性豊かな芸術作品が展示されてきました。常に最高の美を追求し制作する、と云う強い信念がこの様な素晴らしい作品を生むのでしょうか。文字表現の難しさと重ねて観賞しました。

佛教文化を肌で感じ、又芸術作品に触れ、楽しい一日の旅でした。

●役員会議

日時 三月二十九日(日) 午後四時

◎事務局全体会議

日時 三月二十九日(日) 午後五時

平成二十六年年度の各部事業報告、決算報告、平成二十七年年度の各部事業計画、予算(案)について。

◎懇親会 事務局委員四十名が出席。右の項目に従って協議しました。



事務局会議